

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 13 日作成)

小委員会名	建築計画の学術体系小委員会		主 査 名：門内輝行 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会		委員長名：布野修司
設 置 期 間	2005 年 4 月～2007 年 3 月 (他の小委員会とは、1 年設置期間がずれている。)		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	工業社会から知識社会へと時代は大きく転換しつつあり、建築のあり方に大きな変化が生じている。その中で、新しい社会的ニーズに対応した建築計画、国際化に対応した教育改革・高度な実務教育の推進などに対する社会的要請が高まっている。こうした状況をふまえて、次の 3 点を目標とする委員会活動を展開する。 1. 質の高い建築を誘導する建築計画の学術体系の構築 (2005～2006 年度) 2. 研究と実践をリンクする新しいメディアの検討 (2005 年度) 3. 建築計画のためのナレッジマネジメントの推進 (2006 年度)		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有 主査：門内輝行 (京都大学) 幹事：小林秀樹 (千葉大学) 委員：在塚礼子・上野淳 (首都圏大学東京)・小野田泰明 (東北大学)・西出和彦 (東京大学)・松村秀一 (東京大学)・積田洋 (東京電機大学)・吉村英祐 (大阪大学)・大野隆造 (東京工業大学)・篠崎道彦 (芝浦工業大学)・糸長浩司 (日本大学)・佐藤文昭 (T & S コンサルティング)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2006 年度予算	235,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. シンポジウム「建築計画をめぐる新しい学術体系を考える」(2007 年 1 月 24 日、建築会館会議室にて開催) 参加者数 45 名 資料集『建築計画をめぐる新しい学術体系を考える』(64 頁)
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 2004 年 8 月に作成した資料集「建築計画の新しい学術体系のあり方を問う」(174 頁)を参照しつつ、キーワードの見直し、新しいメディアの刊行、ナレッジマネジメントの構築、分野再編の可能性等の課題を整理した。 2. 2007 年 1 月に公開シンポジウムを開催し、「建築計画をめぐる新しい学術体系」をめぐる論点をとりまとめ、資料集として刊行した。
委員会活動の問題点・課題	1. 新しいメディアの刊行、ナレッジマネジメントの構築をめざしたが、小委員会での実践は困難であった。本委員会での取り組みに期待したい。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。